

令和8年度 第1回岸和田市スマートシティ推進協議会 〈資料〉

次第

1. 開会挨拶・趣旨説明
2. 令和8年度の協議会スケジュール及び進め方について
3. 規約の改定について
4. 各WG・部会の活動状況報告
5. 意見交換ラウンドテーブル
6. 閉会の挨拶



令和8年7月29日(水)

10:00~12:00

岸和田市役所新館4階第1委員会室

本日の次第

■ 2026年7月29日(水) 10:00~12:00(2.0h)

時間	プログラム	登壇者	所要時間
10:00 10:05	開会挨拶・趣旨説明	岸和田市 市長 佐野 英利 有限責任監査法人トーマツ (協議会運営支援委託事業者)	2分
10:05 10:15	令和8年度の協議会スケジュール 及び進め方について	有限責任監査法人トーマツ (協議会運営支援委託事業者)	10分
10:15 10:20	規約の改定について	有限責任監査法人トーマツ (協議会運営支援委託事業者)	5分
10:20 11:10	各WG・部会の活動状況報告	株式会社地域創生Coデザイン研究所様 株式会社アグレックス様 有限責任監査法人トーマツ (協議会運営支援委託事業者)	50分
11:10 11:55	意見交換ラウンドテーブル	大阪公立大学 教授 阿多 信吾様	45分
11:55 12:00	閉会の挨拶	岸和田市総合政策部 部長 高井 哲也	5分

1. 開会挨拶

岸和田市 市長 佐野 英利

1. 趣旨説明

有限責任監査法人トーマツ
(協議会運営支援委託事業者)

岸和田市スマートシティ推進協議会の趣旨

- 本協議会は、岸和田市スマートシティ構想で掲げる「住みよい・育てよい・心地よい」まちの実現をめざし、産学官の連携・協働によってスマートシティに係る取組・施策を推進する場です
- 市民目線での利便性や幸福度の向上を重視し、防災・観光・健康・教育・データ連携等の分野において実証及びプロジェクトを通じた具体的な取組を展開します
- デジタル技術やデータの利活用を通じて地域の課題だけでなく魅力も見える化・共有し、行政と民間事業者さらには事業者間の連携・共創を促すことによる持続的かつ横断的なスマートシティの形成をめざしています

岸和田市スマートシティ推進協議会の目的

- 岸和田市におけるスマートシティ構想の推進を図るため、民間企業の力を地域課題の解決につなげ、市民の生活利便性や豊かさの向上を図ることをめざします
- 産学官が連携してデータやICT等の新たな技術を活用しながら、分野横断的に岸和田市における諸課題の解決等に取り組むことにより、岸和田市の魅力を高め、持続可能な都市として機能するスマートシティの実現をめざします

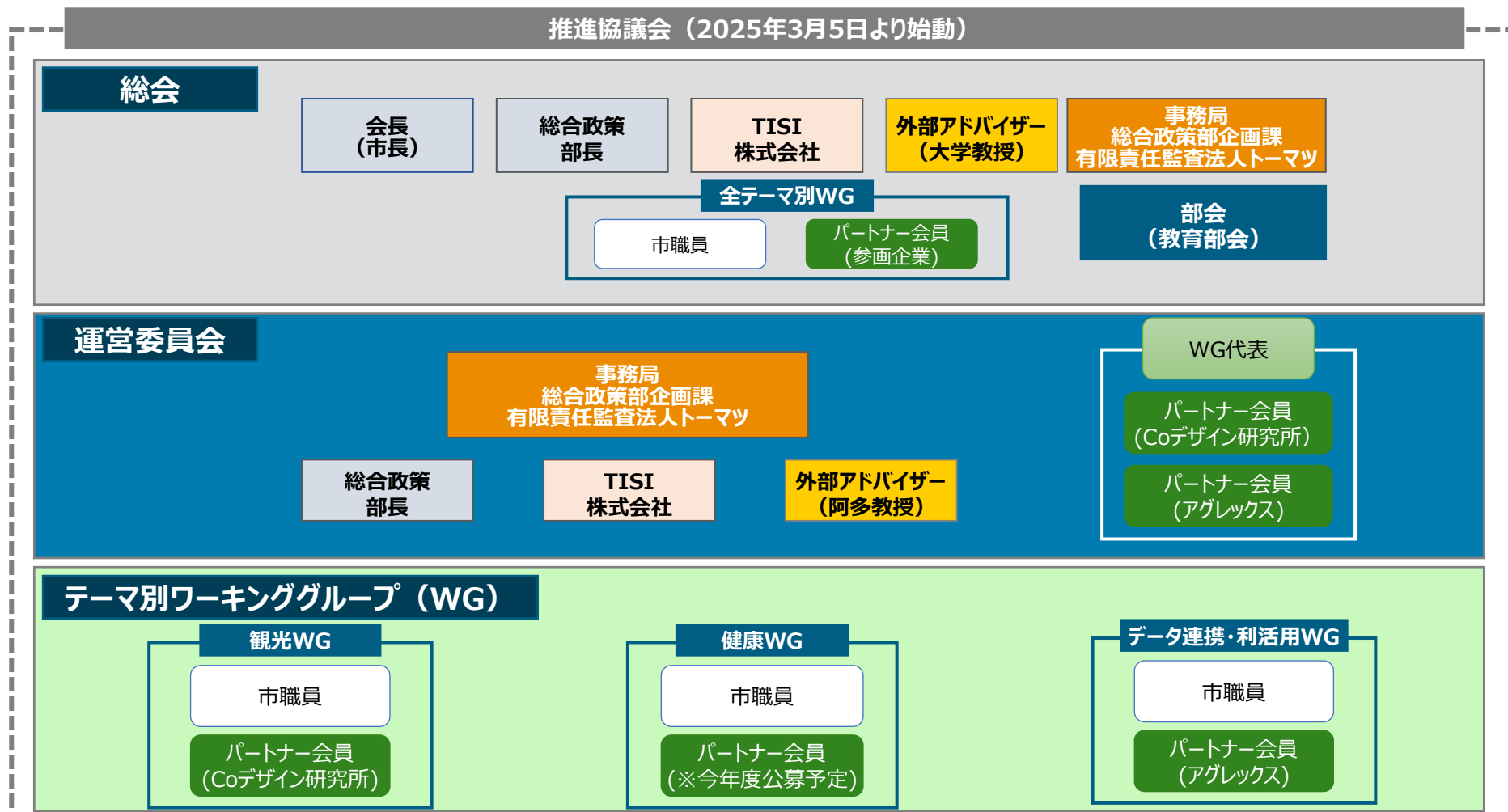
2. 令和8年度の協議会スケジュール 及び進め方について

有限責任監査法人トーマツ
(協議会運営支援委託事業者)

1. 今年度の取組スケジュールについて

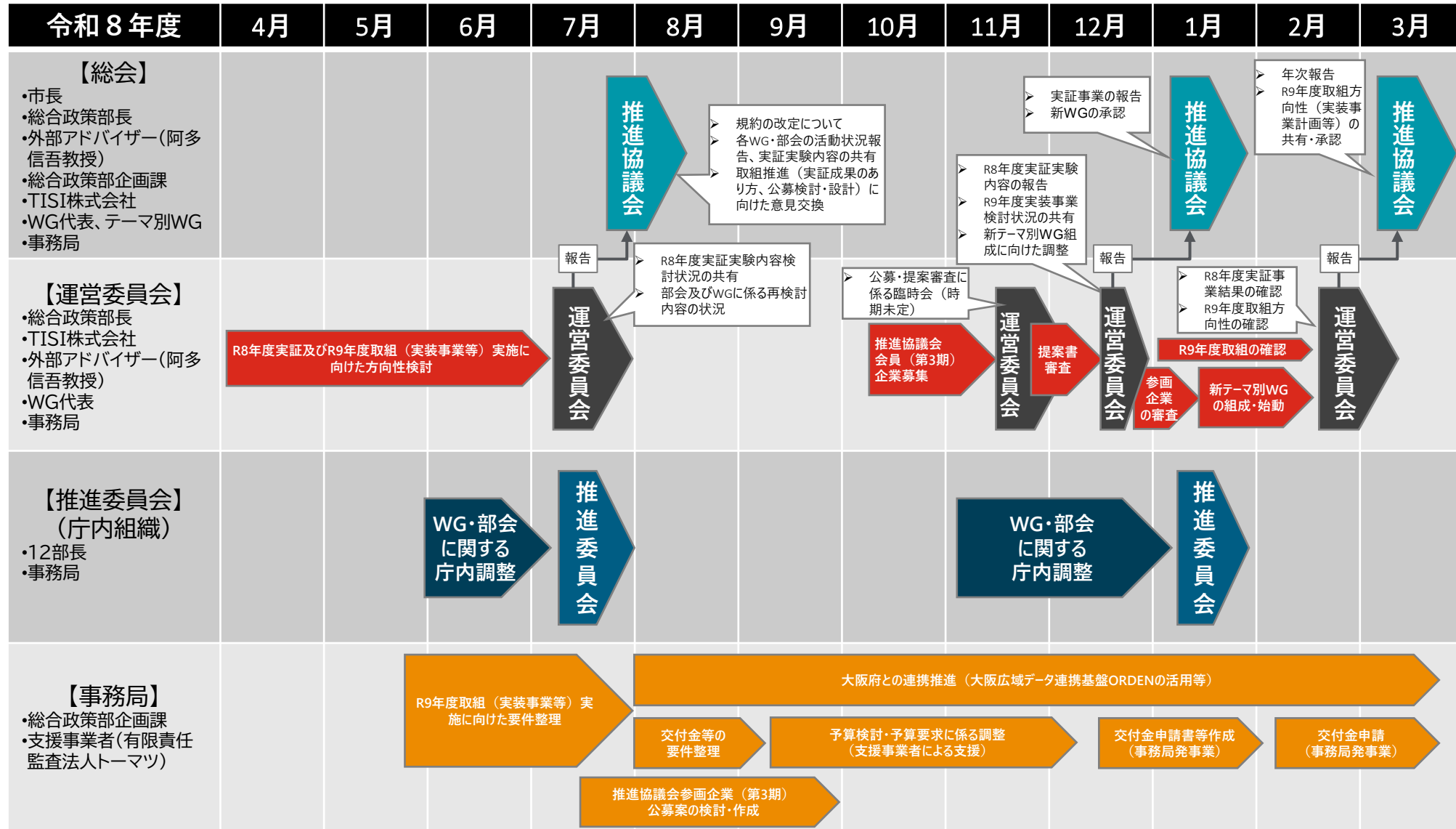
岸和田市スマートシティ推進協議会の会議体について

岸和田市スマートシティ構想を推進する組織として、産学官が連携する組織「岸和田市スマート推進協議会（以下、推進協議会）」とともに、庁内の意思決定機関である本市政策決定会議の専門委員会である「岸和田市スマートシティ推進委員会」と連携し、本市のスマートシティに係る取組を推進していきます。



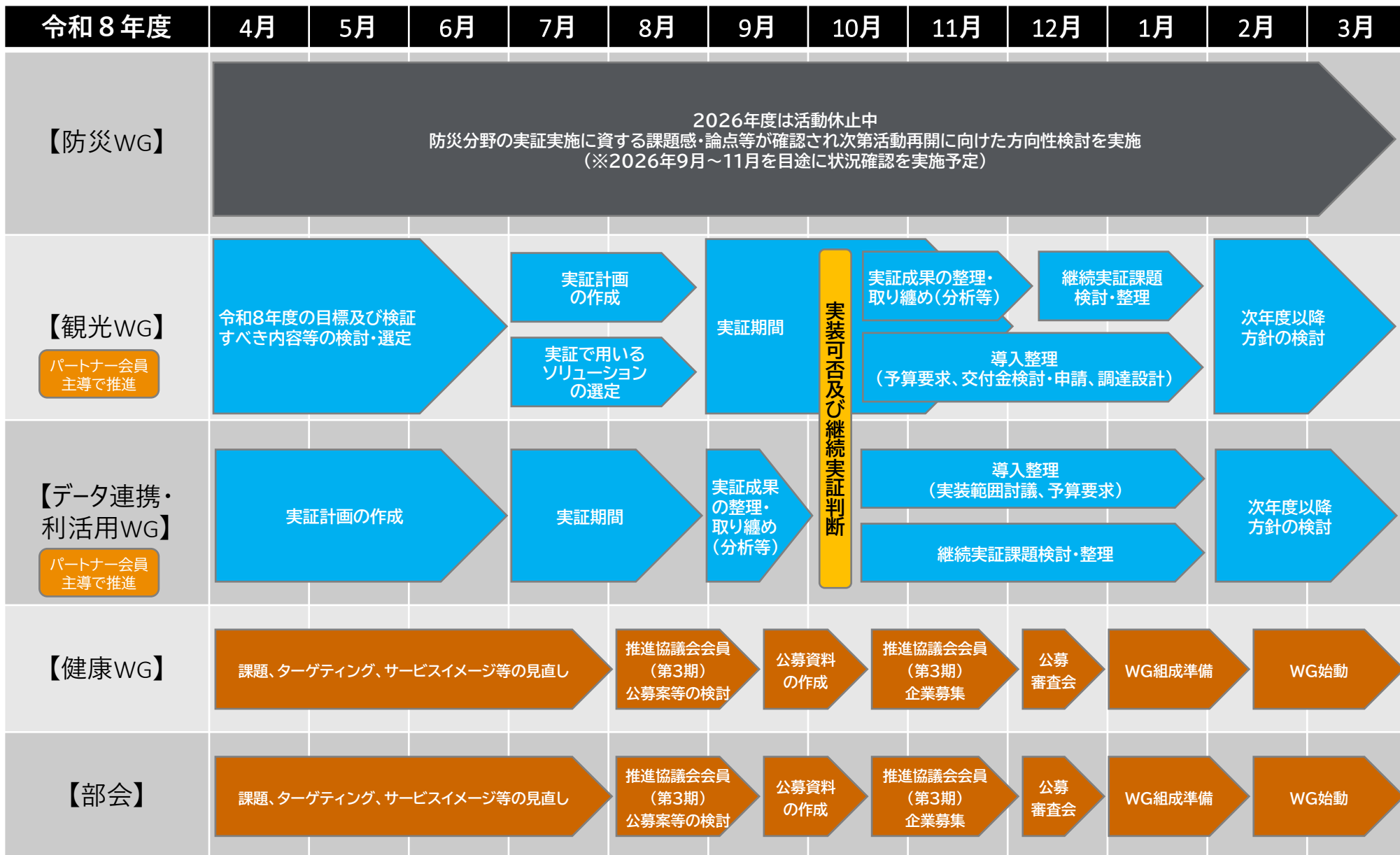
推進協議会のスケジュール感(2026年度当初)について

※実証報告はWGによって異なる
※公募時期等はWG及び部会の進捗に応じて調整を行う



WG及び部会のスケジュール感(2026年度当初)について

※実証時期はWGによって異なる
※公募時期等はWG及び部会の進捗に応じて調整を行う



3. 規約の改定について

有限責任監査法人トーマツ
(協議会運営支援委託事業者)

3. 規約の改定について

新旧対照表

改正後	改正前
○岸和田市スマートシティ推進協議会規約 2025年3月5日	○岸和田市議会委員協議会規約 2025年3月5日
第1条から第4条（省略）	第1条から第4条（省略）
（運営委員会）	（運営委員会）
第5条 協議会に、若干名の運営委員会委員を置く。	第5条 協議会に、若干名の運営委員会委員を置く。
2 運営委員会委員は、総合政策部長、 <u>TISI株式会社</u> 、外部アドバイザー、ワーキンググループの構成員より選任された代表者で構成される。	2 運営委員会委員は、総合政策部長、 <u>株式会社インテック</u> 、外部アドバイザー、ワーキンググループの構成員より選任された代表者で構成される。
3 運営委員会委員は、協議会の業務における会員間の意見を集約し総合的な方針の検討及び決定を行う。	3 運営委員会委員は、協議会の業務における会員間の意見を集約し総合的な方針の検討及び決定を行う。
第6条から第17条（省略）	第6条から第17条（省略）
附則	附則
この規約は、令和7年3月5日から施行する。	この規約は、令和7年3月5日から施行する。
附則(令和8年7月29日改正)	
<u>この規約は、令和8年7月29日から施行する。</u>	

4. 各WG・部会の活動状況報告

【観光ワーキンググループ】

株式会社地域創生Coデザイン研究所

×

観光課、産業政策課、農林水産課、
交通まちづくり課、広報広聴課、企画課

1. これまでの議論 – 昨年度の振り返り

昨年度実証の学び(施策の「当たり」に関する再確認)

- 昨年度は「スポット選択型の周遊」+「事前／事後アンケート(純粹想起で認知変化を測定)」による実証を実施し、多くの示唆・気づきを得ました

【得られた示唆(一例)】

◆ 満足度と相関が強い

- ✓ 「定番・人気に行けた」点、刺激、文化体験

◆ 観光資源としての効果の確認(効果的であった可能性の確認)

- ✓ 岸城神社(定番人気層での寄与が大)
- ✓ 能楽堂・岸和田城(訪問者と非訪問者で満足差が大きい)
- ✓ ガイドツアー評価が高い(ストーリーが効果的であった)

◆ 今年度に対する示唆

- ✓ 「定番×文化体験×ストーリー」を、発信・導線・(可能であれば)消費に接続できると強いのでは？

1. これまでの議論 – 今年度の課題

今年度の課題の整理(視点:何が取得できれば良いか?)

- 昨年度は効果的な実証を実施できた一方で、実証実施により明らかになった要素も多々存在します
- 「昨年度取れた(取得・検証できた)」、「取れていない(取得・検証できていない)」という要素を明確化し、今年度テーマの選択に繋がります

【昨年度取得できた要素】

- 行動ログ(周遊)
- アンケート(認知・興味・評価の変化)

【取得できていない要素(今年度の伸びしろ)】

- 発信反応⇒どの情報(発信)が閲覧され、行動に繋がったか
- 消費行動⇒どこで何が使われたか、「普段行かない場所に行った」が発生したか
- 既存施策データの活用(今年度新要素)⇒商品券、黒鯛フェア、関西大学連携成果等を施策設計に繋がっていく

【今年度の方向性について】

- ✓ 今年度は「不足している中の1つ」を埋める年にする方向性はどうか？

1. これまでの議論 – 今年度の選択肢

- 今年度実証の選択肢としては、3案(A案、B案、C案)を検討の俎上に載せ意見交換を実施。
- 意見交換の結果、今年度はC案「既存データを活用した分析」を次年度施策につなげるための検討を中心に進める方向とした
- 併せて、A案「note等を活用した情報発信」についても、生成AI検索や認知経路の変化を捉える観点から、活用可能性について継続検討する

実証案	主な価値	課題・留意点	実現性
案A note等を活用した 情報発信	・ 発信の効き目を可視化し、改善PDCAを構築できる	・ 新規発信媒体の運営主体(誰が書くか)の整理が必要 ・ 発信～来訪の因果特定が難しい場合あり	▲運用についての同意、体制の構築が必要(体制を整えれば可能)
案B 消費行動の検証	・ 消費・回遊の構造、インセンティブの効き目を把握できる	・ 地域ポイント事業との並走が必要(スケジュール上難しい) ・ 取得データの分析が次年度になる可能性	▲今年度は別事業との連動が難しい
案C 既存データを活用した分析	・ 来訪者像・施策の効きどころを把握し、毎年回せる「分析の型」を残せる	・ 「分析だけ」と見られないよう、効果検証・取組も含める設計が必要	○既存データを活用するため、着手しやすい

1. これまでの議論 – 現時点における到達点

- 黒鯛フェア等を題材に、既存データ・今年度アンケート・庁内各課の取組を接続し、イベント効果や来訪者行動を分析する方向性を共有した
- 観光課・農林水産課・産業政策課・広報広聴課・交通まちづくり課の取組と接続しながら、観光分野に閉じない活用可能性も確認する
- イベント毎にアンケート項目が異なると経年比較や横断分析が難しくなるため、共通の取得項目や分析の型について整理する必要性を確認した

(参考) 黒鯛フェアのアンケート分析例

令和5年度	岸和田市内		その他	
	人数	割合	人数	割合
20歳未満	5	(0.8%)	9	(0.8%)
20代	14	(1.4%)	13	(2.5%)
30代	20	(5.0%)	17	(3.7%)
40代	24	(6.8%)	27	(4.8%)
50代	36	(10.2%)	33	(7.6%)
60代	30	(8.1%)	20	(3.3%)
70代	13	(3.6%)	15	(2.6%)
80代以上	61	(16.6%)	20	(3.3%)

令和6年度	岸和田市内		その他	
	人数	割合	人数	割合
20歳未満	2	(0.3%)	1	(0.1%)
20代	14	(1.0%)	14	(2.0%)
30代	29	(4.2%)	30	(4.3%)
40代	40	(5.8%)	70	(10.1%)
50代	68	(9.8%)	117	(16.9%)
60代	87	(12.5%)	61	(8.7%)
70代	61	(8.7%)	20	(2.9%)
80代以上	29	(4.2%)	20	(2.9%)

令和7年度	岸和田市内		その他	
	人数	割合	人数	割合
20歳未満	0	(0.0%)	0	(0.0%)
20代	11	(1.6%)	9	(1.3%)
30代	11	(1.6%)	6	(0.9%)
40代	19	(2.8%)	11	(1.6%)
50代	20	(2.9%)	21	(3.1%)
60代	20	(2.9%)	21	(3.1%)
70代	20	(2.9%)	21	(3.1%)
80代以上	10	(1.5%)	10	(1.5%)

- ・ 令和6年度は市外からが過半数、令和7年度は市内が過半数。しかし最も多いのはいずれも市外からの50代

(取組例)

- ✓ 厚い層である「市外からの50代」をより深く理解し、今後の施策(発信・誘客等)につなげるため、「追加で把握すべき情報」を整理する
- ✓ 整理した観点に基づきアンケート設問を改良し、今年度のフェアで当該層の特性をより詳細に把握する
- ✓ 今年度のアンケート結果の分析を通じて、当該層に向けた次年度施策(発信含む)の検討材料を整理する
- ✓ 一連の取組を「分析の型」として整理し、他施策にも応用可能とする

令和5年度	岸和田市内		その他	
	人数	割合	人数	割合
広報誌「広報きしわだ」	3	(0.8%)	3	(0.5%)
市ホームページ	6	(1.7%)	3	(0.5%)
市以外のホームページ	0	(0.0%)	0	(0.0%)
SNS・ブログ	11	(3.1%)	15	(2.2%)
ポスター	11	(3.1%)	15	(2.2%)
パンフレット	11	(3.1%)	15	(2.2%)
メルマガ配信	0	(0.0%)	0	(0.0%)
テレビ	0	(0.0%)	0	(0.0%)
新聞	0	(0.0%)	0	(0.0%)
ラジオ	0	(0.0%)	0	(0.0%)
家族・友人・知人	0	(0.0%)	0	(0.0%)
店内のメニュー	0	(0.0%)	0	(0.0%)
その他	13	(3.6%)	15	(2.2%)

令和6年度	岸和田市内		その他	
	人数	割合	人数	割合
広報誌「広報きしわだ」	4	(0.6%)	3	(0.4%)
市ホームページ	6	(0.9%)	3	(0.4%)
市以外のホームページ	0	(0.0%)	0	(0.0%)
SNS・ブログ	11	(1.6%)	15	(2.2%)
ポスター	11	(1.6%)	15	(2.2%)
パンフレット	11	(1.6%)	15	(2.2%)
メルマガ配信	0	(0.0%)	0	(0.0%)
テレビ	0	(0.0%)	0	(0.0%)
新聞	0	(0.0%)	0	(0.0%)
ラジオ	0	(0.0%)	0	(0.0%)
家族・友人・知人	0	(0.0%)	0	(0.0%)
店内のメニュー	0	(0.0%)	0	(0.0%)
その他	13	(1.9%)	15	(2.2%)

令和7年度	岸和田市内		その他	
	人数	割合	人数	割合
広報誌「広報きしわだ」	3	(0.4%)	3	(0.4%)
市ホームページ	6	(0.8%)	3	(0.4%)
市以外のホームページ	0	(0.0%)	0	(0.0%)
SNS・ブログ	11	(1.5%)	15	(2.2%)
ポスター	11	(1.5%)	15	(2.2%)
パンフレット	11	(1.5%)	15	(2.2%)
メルマガ配信	0	(0.0%)	0	(0.0%)
テレビ	0	(0.0%)	0	(0.0%)
新聞	0	(0.0%)	0	(0.0%)
ラジオ	0	(0.0%)	0	(0.0%)
家族・友人・知人	0	(0.0%)	0	(0.0%)
店内のメニュー	0	(0.0%)	0	(0.0%)
その他	13	(1.8%)	15	(2.2%)

- ・ 岸和田市内外問わず、多くの方は「店内メニュー」により、入店後にフェアを認知
- ・ 岸和田市内については、広報誌・市HP等が一定機能
- ・ 岸和田市外については、現地接触・偶発的接点を中心

(取組例)

- ✓ 分析結果を踏まえ、市外へ届く既存の発信経路(観光サイト等)を整理し、仮説に基づいて改善・工夫する
- ✓ 今年度のアンケートで、認知経路の設問を詳細化し、「来訪前にどの情報に接触したか」を捉えられる設計に改善する
- ✓ 今年度のアンケート結果の分析により、効果のあった発信ルート特定し、来年度以降の施策の敲き案として整理

2. 主な論点・課題、今後の進め方

主な論点・課題等

- 観光WGで取り組む意義を、原課業務の代替ではなく、部局横断で活用できるデータ分析・効果検証モデルの構築として明確化する必要がある
- 黒鯛フェア等の個別イベント分析を、次年度以降の周遊促進、地域ポイント、情報発信、産業振興、交通施策等へどう接続するか具体化する必要があり、またnote等を活用する場合は運用主体・発信内容・庁内負荷・効果測定方法等を整理する必要がある

今後の進め方について

- C案を軸に、対象イベント、分析対象データ、アンケート項目、効果検証方法、次年度施策への接続案を具体化する
- A案については、noteの活用主体や掲載内容、認知経路・生成AI経由の流入把握等の検証可能性について整理する
- 今年度の検討成果を、個別イベントの分析結果に留めず、他イベント・他分野にも応用可能な分析の型(またはその取組の起点)として整理する

【データ連携・利活用ワーキンググループ】

株式会社アグレックス

×

IT推進課、企画課

市役所の課題



電話問い合わせが**過度に集中**



通常業務との並行対応で
職員の業務が**逼迫**

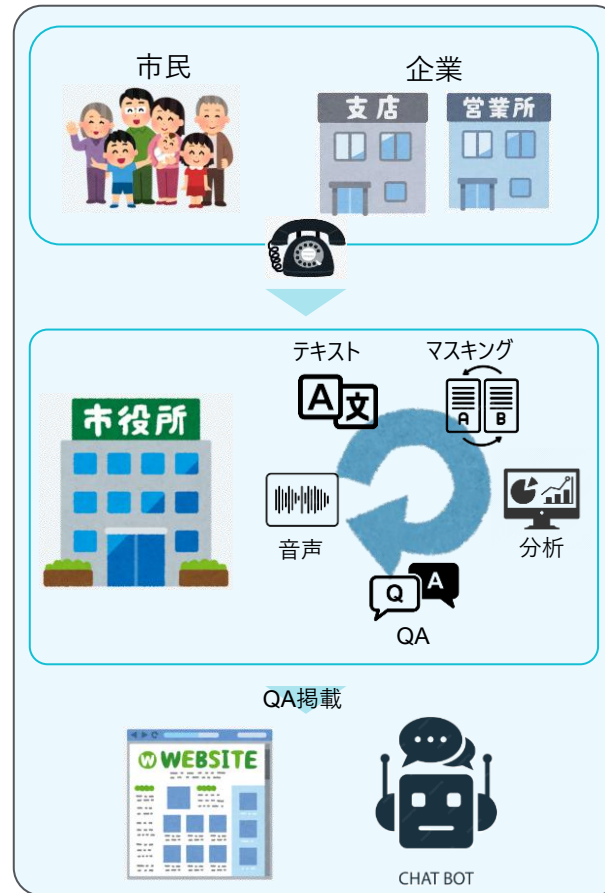


市民のニーズが**把握できない**

市民の現状



電話を掛けないと知りたい**情報**
が**得られない**



目指す姿



問い合わせを**体系的に把握**・
FAQやチャットボットに反映



市民が「電話しなくても
答えにたどり着ける」状態



職員の**負担が軽減**されている



データに基づく政策立案が
進んでいる状態



データ活用の文化が醸成
されている状態

これらの課題を解決し、誰もが必要な情報にたどり着ける市役所を実現するため、本年度は次の3つのテーマに重点的に取り組みます。

① FAQ自動生成の基盤づくり（Q候補抽出）



令和8年度は、本WGでこれまで整理してきたQ候補抽出プロセスや実証設計を踏まえ、FAQ自動生成に向けた前段作業を確実に実施する。

② AI活用（VextMiner代替）の本格検証



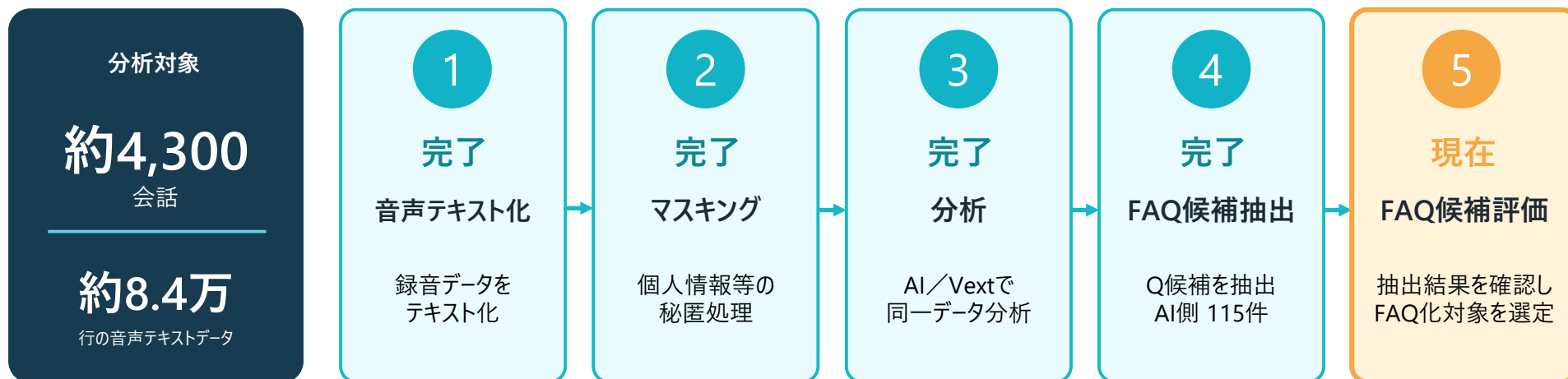
PJ企画段階からの位置づけとして、生成AIが VextMiner を代替し得るかを検証し、FAQ生成プロセスの高度化・自動化の可能性を探る。

③ 感情分析による住民ニーズの可視化



岸和田市より期待が示されている「感情分析」を活用し、住民の困りごと・不安・緊急性といった“質的データ”を把握し、市民ニーズの把握や改善検討に活用する。

分析工程は概ね完了し、抽出結果を踏まえたFAQ候補評価フェーズへ移行



当WGにおける
ポイント

「データ化・マスキング・分析・FAQ候補抽出」までは完了。
次は、抽出された候補の中からFAQ化する対象を評価・選定する段階。

AIで個別質問、Vextで全体傾向を可視化。FAQ整備に直結する中間成果を確認

AI：候補生成

AI **115件** のQ候補を抽出

- ✓ 年金・母子手当・介護保険等の個別質問を抽出
- ✓ 多様な表現・新規質問を含む候補を生成

Vext：整理・構造化

- Vext
- ✓ 問い合わせ傾向を把握
 - ✓ 頻出語・テーマ、類似質問のまとまりを整理
 - ✓ FAQ原案・問い合わせ傾向資料として活用可能

到達点

- ✓ FAQ候補抽出の実現性を確認
- ✓ AI活用可能性を確認
- ✓ 感情分析を検証テーマとして位置付け
- ✓ 将来的なFAQ自動生成の方向性を確認

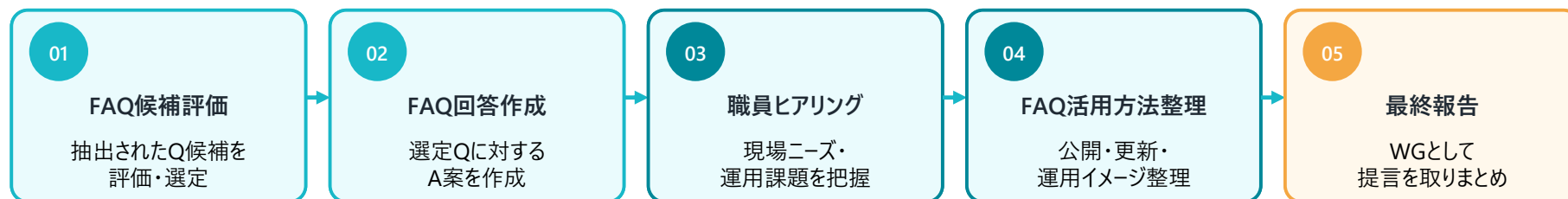
当WGにおけるポイント

「候補抽出はできる」段階まで到達。
今後は、抽出結果を人が評価し、実運用に使えるFAQへ整える。

期待効果

FAQ整備により、市民の自己解決促進・電話問い合わせ削減・職員負荷軽減につなげる

FAQ候補の評価・回答作成から、活用方法整理・最終報告へ進める



協議会全体で整理したい横断テーマ

他WGとの連携

FAQ・AI活用は複数分野に関わるため、
横串で共通課題を共有

AI活用方針整理

感情分析・FAQ生成の活用範囲、
チェック体制、運用ルールを整理

AIチャットボット展開検討

令和9年度以降のAIチャットボット・
音声窓口の導入方向性を検討

当WGにおける ポイント

次の論点：FAQ化する対象を評価・選定し、現場で使える運用方法として整理する

FAQ・AI活用が複数分野にまたがるため、他WGとの連携やAI活用方針、今後の位置づけについて協議会としてご支援いただきたい事項を整理しています。

他WG（子育て・福祉・教育・安全安心など）との連携の場づくり

FAQ・AI活用は複数分野に関わる横断テーマであるため、他WGとも共通課題を共有し、分野を超えた連携のあり方について、協議会の皆さまと一緒に協議させていただきたい。

AI活用方針（特に感情分析・FAQ自動生成）の大枠整理

令和8年度にどこまでAI活用（感情分析・FAQ生成など）を検証対象とするか、また活用範囲やチェック体制・運用ルールについて、WGを通じて協議会の皆さまと一緒に整理していきたい。

中長期ロードマップへの位置づけ

令和8年度のVextMiner + AI検証結果を踏まえ、令和9年度以降のAIチャットボットや音声窓口の導入方向性に加え、将来的な他市との連携や広域展開の可能性についても、協議会やWGを通じて一緒に検討していきたい。

【健康ワーキンググループ】

健康推進課、福祉政策課、子育て支援課
企画課

健康WG:活動状況報告

- 生活習慣改善をテーマに、届けたい層にアプローチし、取組を継続できる仕組みを具体化する

健康WGの目的・位置づけ

- ・単に新しいアプリやデジタルサービスを導入する(または本格的な導入に繋げようと尽力する)ことなく、職員が既に実施している健康・食育・子育て・教育関連の事業や計画に反映できる知見を、スマートシティの枠組みを活用して、部門横断で検証する

今年度の健康WGの検討状況

- ・参画事業者より今年度は実証辞退の意向が提示され、今後は同社にサポート会員として参画いただく方向を確認した
- ・昨年度実証を踏まえ、朝食摂取に限らず、睡眠、スマホ利用、生活リズム等を含む生活習慣全般の改善をテーマとして捉える方向で進める
- ・健康WGと教育部会の合同協議を実施し、学校現場における既存取組や実施上の制約等をテーマに意見交換を実施し助言を受けた
- ・子どもの生活習慣は学校だけでなく、保護者の意識や家庭環境の影響が大きいことから、学校での新規実施に限定せず、保護者・家庭・子育て世代・市民全体への働きかけも含めて検討する必要性を確認した

これまでの議論・取組の到達点

- ・健康WGのテーマ自体は、引き続き「子どもを含む生活習慣改善」として意義がある一方、小中学校を主な実施場所として新たな取組を追加する方向は、現時点では慎重に扱う必要がある
- ・学校現場で新たなプログラムを実施することを前提にせず、既存取組等も確認しながら、健康WGとして取り組む対象、テーマ、手法を再整理する
- ・特に、健康意識の高い家庭だけでなく、本来アプローチしたい層にどう届けるかが重要であり、保護者・家庭・子育て世代・市民全体を視野に入れた設計が必要である

健康WG:活動状況報告～今年度の実証・検討に向けた方向性～

- 再公募では、クイズアプリの是非に関しても再考、生活習慣改善に資する(課題を解決する、取組を前に進めるに相応しい)サービス(デジタル・ICTを用いた取組)を求める
- 岸和田市実施の事業・計画への反映も見据え、実証結果がデータや示唆として還元されることも考慮

【サービス・機能のイメージ検討に係る要素(一例)】

区分	機能・イメージ	期待効果
記録	朝食摂取、睡眠、運動、気分、生活リズム等を簡易に記録	生活習慣の可視化
啓発	クイズ、コラム、アドバイス、動画、親子ミッション	健康・食育に関する気づき
継続支援	ポイント、スタンプ、バッジ、通知、ランキング	途中脱落の抑制
親子参加	親子で回答・記録・振り返りを行う仕掛け	家庭内コミュニケーションの促進
主体的参加	子ども本人が考え、行動できる仕掛け	課題等の自分ごと化
集団参加	市の行事・イベント、学校、学年、クラス、学童単位等での任意参加	無関心層・本来のターゲット層への到達可能性
可視化	個人向けフィードバック、保護者向け振り返り	行動変容の促進
行政の分析	属性別、参加経路別、継続率、離脱率、生活習慣傾向の分析	施策検討への活用
負担軽減	学校・市職員が個別対応しなくても運用できる設計	実装可能性の確保

健康WG：活動状況報告～今後の協議・調整内容～

- 今後の大きな流れとして以下を想定、現状を踏まえ健康WGとしての課題感を再確認したうえで、教育部会からの助言等も踏まえ、再公募に向けたテーマ・サービス要件・評価観点を整理

今後の協議・調整内容

- ✓ 公募テーマをどの表現で整理するか
- ✓ 既存取組と重複しないよう、どの事業・計画を公募資料に記載するか
- ✓ 事業者にも必須で求める要件と、自由提案に委ねる部分をどう分けるか

【教育部会】

学校教育課、教育総務課、生涯学習課
企画課

教育部会:活動状況報告

- 公募による新規実証を前提に置きすぎず、市単独で実施可能なミニマム実証を通じて、教育部会としてスマートシティ協議会の中で取り組むべきテーマ・関与領域を再整理する

教育部会の目的・位置づけ

- ・単独で大きなWGを立ち上げる段階ではなく、実行可能な小さな取組を通じて、教育分野でのスマートシティ実装の方向性を見極める

今年度の教育部会の検討状況

- ・ミニマム実証として、講座情報等をAIでHTML化・コード化し、HPに掲載する取組を進める
- ・公募による外部事業者との連携実証ではなく、企画課・IT推進課・関係課が連携し、まずは庁内で試行する
- ・対象講座、作業範囲、課内への説明方法について、改めて調整する必要性を確認した
- ・健康WGとの意見交換については学校現場の実態、既存取組、教育側の優先課題を踏まえた助言・示唆出しを行った

これまでの議論・取組の到達点

- ・AIによるHTML化・コード化の取組は、市単独でも一定程度対応可能であり、まずは一部講座を対象に有効性や運用上の課題を確認する方向で整理されつつあり、当該取組は単なるHP掲載方法の改善に留まらず、講座情報をAI等が把握しやすい構造に整えることで、市民への情報到達性向上や職員オペレーション改善につながる可能性がある
- ・関係課にとっては新たな業務対応となるため、試行段階では対象範囲を限定し、実務負担や作業手順を確認しながら進める

教育部会:活動状況報告～今年度の実証・検討に向けた方向性～

ミニマム実証のねらい

- ✓ 現在、生涯学習講座情報の一部はPDF等で掲載されており、市民が検索エンジンやサイト内検索から必要な情報にたどり着きにくい状態がある
- ✓ そこで、PDFに含まれる講座情報を、検索に適した形式へ変換し、情報アクセシビリティと検索性の向上を図る

実証において確認したいこと

確認観点	内容
対象資料	どのPDF、講座情報を対象にするか
変換形式	マークダウン、HTML、表形式、CSV等のどの形式が適切か
変換精度	講座名、日時、場所、対象、申込方法等が正しく抽出・整理できるか(できそうか)
CMS連携	市HP上で表示・更新・保守しやすい形式か
職員負担	生涯学習課等が確認・修正・更新できる運用か
市民到達性	検索やサイト内導線から見つけやすくなるか

教育部会：活動状況報告～今後の進め方・スケジュール～

■ ミニマム実証と成果・ノウハウの共有を通じて、教育部会として継続的に取り組むべき領域を整理する

生涯学習課との調整

生涯学習課に対し、AIによるHTML化・コード化の取組内容、対象範囲、想定作業を改めて説明し、試行対象となる講座や実施可能性を確認する。

ミニマム実証の実施

一部講座を対象に、講座情報のHTML化・構造化を試行し、業務効率化や情報活用の効果、運用上の課題を確認する。

効果・課題の評価

ミニマム実証の結果を踏まえ、導入効果や継続運用に向けた課題を整理し、今後の展開方針を検討する。

ノウハウ共有による 業務変容の検証

実証を通じて得られた成果やノウハウを職員へ情報提供し、それによりオペレーションや業務負担に変化・変容が生じるか、また今後期待できるかを検証する。

継続的に取り組むべき 領域の整理

単独実証の有無にかかわらず、庁内試行、情報発信改善、他WGへの助言などの観点から、教育部会として継続的に取り組むべき領域を整理する。

5. 意見交換ラウンドテーブル

大阪公立大学 学長補佐・大学院情報学研究科
教授 阿多 信吾 様

45分の進行設計

前半で「今年度どこまで進めるか」を確認し、中盤で生成AIを横断テーマ化、後半でWG形式の価値と期待を言語化する。



0:00-3:00	目的・論点共有、登壇者紹介
3:00-18:00	これまでのWG活動の成果と今年度の発展方向
18:00-31:00	スマートシティにおける生成AIの活用可能性
31:00-42:00	WGの進め方、企業から見た期待・メリット
42:00-45:00	モデレーター総括、次年度に向けた示唆整理

岸和田市スマートシティ推進協議会

意見交換ラウンドテーブル

45分・企業3社（TISI／アグレックス／地域創生Coデザイン研究所）

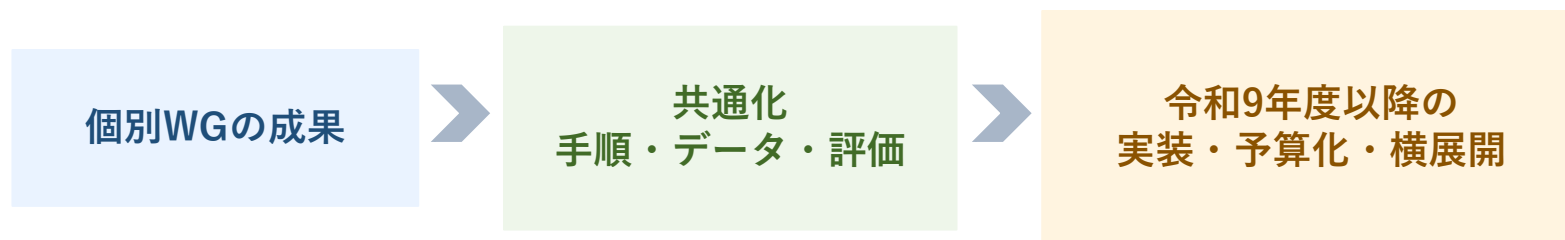
WG活動の成果を
今年度の発展へ

生成AIを
スマートシティへ

WG形式の価値を
次の実装へ

ねらい：個別実証の報告ではなく、令和9年度以降の実装・横展開に向けた共通認識を形成する

パネル全体の主メッセージ



- ・観光：黒鯛フェア等を起点に、観光・産業・交通・広報に横展開できる分析の型を構築
- ・データ連携：FAQ、HP情報、問い合わせ分析を通じて、市民到達性と職員負担軽減を検証
- ・健康・教育：生活習慣改善、講座情報の構造化など、庁内施策へ還元できる知見を整理
- ・防災：今年度休止中だが、平時・発災時を含めたテーマ再整理の余地

テーマ1：WG成果を踏まえた今年度の発展

狙い：各WGが今年度「何を実現し、何を成果として残すか」を明確にする。

地域創生Coデザイン研究所 観光WG

- ・既存イベント・来訪者データの分析
- ・他分野に使えるアンケート・効果検証の型
- ・次年度施策への接続

アグレックス データ連携・利活用WG

- ・問い合わせ・FAQ・HP情報の整理
- ・市民の自己解決と職員負担軽減
- ・運用・更新フローの設計

TISI 防災WG・全体運営視点

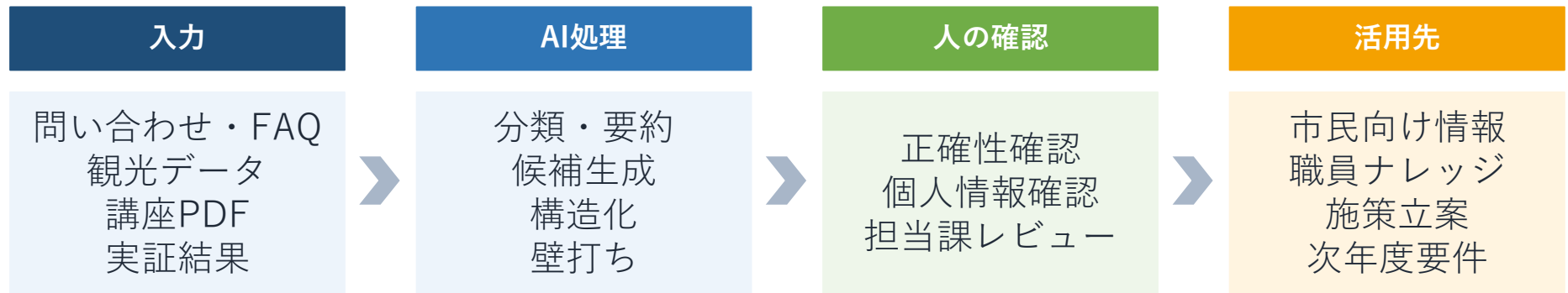
- ・平時・発災時の課題再整理
- ・複数課の合意形成とリスク把握
- ・他自治体への横展開可能性

モデレーター問い

- ・今年度の成果を「実証結果」ではなく「型」「手順」「判断材料」として残すなら何か。
- ・令和9年度以降の実装・予算化に向けて、今年度中に確認すべき条件は何か。

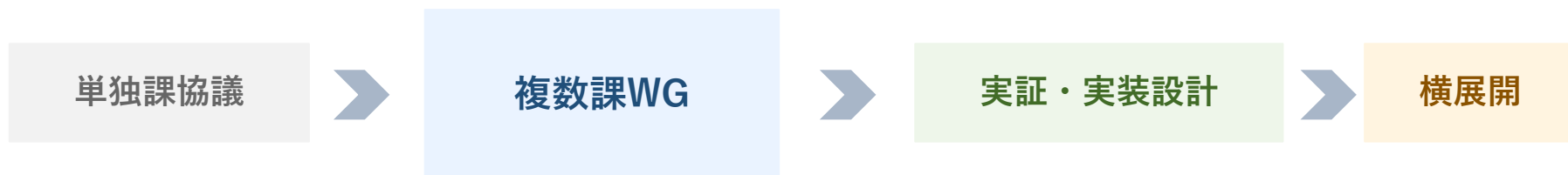
テーマ2：スマートシティにおける生成AIの活用可能性

狙い：生成AIを単なる効率化ツールではなく、情報到達性・政策検討・庁内ナレッジ化の共通基盤として捉える



テーマ3：WGの進め方と企業側の期待

狙い：WG形式の価値を明確化し、企業提案を市の実務・庁内連携・次年度事業へ接続する。



- 複数課が参加することで、課題の連鎖・波及関係・相乗効果が見える
- 実データと現場課題をもとに、提案内容を机上から実務レベルへ具体化できる
- 庁内負担、確認フロー、導入範囲、予算化条件を早い段階で議論できる
- 企業側には、市の課題理解・提案具体化・他自治体展開の材料が得られる

問い：企業として、WGに今後どのような情報・場・意思決定支援を期待するか。

モデレーター用：質問設計

導入質問

まず、これまでのWG活動を通じて「一番見えてきた課題」または「進んだ点」は何ですか。

テーマ1

今年度の成果として、報告書ではなく、次年度に使える「型」として残すべきものは何ですか。

テーマ2

生成AIを使うと効果がありそうだが、人の確認や情報管理が不可欠な業務はどこですか。

テーマ3

WG形式だからこそ可能になった議論は何ですか。単独課との協議と何が違いましたか。

締め

岸和田市のスマートシティを次の段階に進めるため、今年度中に必ず整理すべきことを一つ挙げるなら何ですか。

運営メモ

- ・各テーマ冒頭で「1社90秒程度」の初回発言を依頼し、その後クロストークに移る。
- ・時間超過時はテーマ2を少し短縮し、テーマ3とまとめ時間を確保する。

参考資料：WG別の論点マッピング

WG・部会	今年度の主な論点	パネルで引き出す観点
観光	既存イベント・来訪者データから、分析・効果検証の型を構築	分析結果を周遊促進・産業・交通・広報へつなぐ視点
データ連携	FAQ・HP情報・問い合わせ分析による市民到達性向上	生成AI活用、正確性確認、更新フロー、効果指標
健康	生活習慣改善、家庭・保護者への波及、参加継続	公募テーマ、対象者、既存施策への還元
教育	講座情報のHTML化・構造化、PDF情報の検索性改善	小さな庁内試行から情報発信改善へつなげる方法
防災	今年度休止中。平時・発災時を含むテーマ再整理	AsIs/ToBe、庁内合意形成、他自治体共通課題

使い方：テーマ1・2・3のどこで各WGに触れるかを事前に決めておくと、45分でも議論が散らばりにくい。

各WG・部会におけるAI・生成AI等の活用状況と庁内業務への展開可能性について

各WG・部会の取組を通して、AI・生成AI等は、問い合わせ分析、観光ルート案の検討、実証結果の要約、コンテンツの検討、講座情報の構造化など、庁内業務の幅広い場面に活用できる可能性が見え始めている

WG・部会	AI・生成AI等の活用状況(一例)及び活用可能性	庁内業務への展開可能性
観光WG	■岸和田市の観光資源紹介、周遊ルート案の壁打ち・デモ等に加えて、観光関連データや実証結果の整理・分析、傾向把握、施策検討に向けた情報整理等に生成AI等を活用 ■地域資源・来訪者目線・データ分析結果を踏まえながら、モデルコース案、情報発信案、施策検討のたたき台作成、仮説構築及び分析観点整理等に活用可能性を確認	■観光施策において、データや実証結果を基にした傾向整理、施策検討、情報発信、モデルコース作成等に展開可能 ■観光分野に限らず、庁内で保有するデータや現場情報を整理し、施策立案・説明資料作成・対外発信のたたき台を効率的に作成する業務にも応用できる可能性がある
データ連携 利活用WG	■実証において、約4,300件の会話データ、約84,000行の音声テキストを分析し、AI及び分析ツールを活用してFAQ候補を整理(ツールや人の確認と組み合わせで検証を実施) ■現時点で115件のQ候補を抽出、生成AIは多様なFAQ候補の作成、分析ツールは問い合わせ傾向の把握・類似質問の構造化に強みがあることを確認	■市民問い合わせ対応・FAQ整備・庁内ナレッジ整理・回答案作成支援等、職員の情報整理・市民対応業務の効率化・標準化・高度化に展開できる可能性がある ■FAQ整備にとどまらず、庁内ナレッジの横断的な活用を視野に入れた検討を進められる可能性がある
健康WG	■事業者において、生成AIを活用し、実証結果のサマリ作成等を実施 ■加えて、生活習慣改善や参加促進に向けたクイズ・イベント内容・健康コラム・問いかけ・設問案等の一定量が必要となるコンテンツの壁打ち・たたき台作成にも活用可能性がある	■健康づくり・子育て・教育・広報・イベント等の分野において、市民の関心を高める啓発コンテンツ及び参加促進コンテンツを効率的に作成・改善する業務に展開できる可能性がある
教育部会	■講座情報等の到達性向上をテーマに、AI等を活用して講座情報のHTML化・コード化を行い、HP掲載につなげるミニム実証を実施 ■PDF・チラシ等に掲載されている講座情報について、講座名・日時・場所・対象・申込方法等を抽出・整理のうえ、検索・閲覧・再利用しやすい形式へ変換する方向性を確認	■市民向け講座、イベント、子育て・教育関連情報等のPDFやチラシ等に埋もれがちな情報を、検索しやすく、比較しやすく、かつ見つけやすい形で発信する業務に展開可能 ■情報到達性の向上及び職員による情報掲載・更新業務の効率化につながる可能性がある

※「防災WG」においても市場調査(現場課題を解決できるソリューションが既にあるのか調査)を実施する際にAIを活用した

6. 閉会の挨拶

岸和田市 総合政策部 部長 高井 哲也